



ラムサール条約湿地
志津川湾



南三陸町

もくじ
目次

1. はじめに 2
2. 志津川湾の営み 3
3. ラムサール条約ってなに? 7
4. 志津川湾の藻場 11
5. 志津川湾の干潟・湿地 23
6. 志津川湾の水鳥 29
7. 志津川湾の特徴的な生きものたち .. 35
8. 湿地を活かしていくために 37



みなみさんりくちょう うみ かんきょう
南三陸町の海は、どのような環境になっているのかな？

このハンドブックを^み見ながら、みんなの故郷の海『志津川湾』に
ついて^{まな}学んでみよう。



1. はじめに

みなみさんりくちょう うみ た よう し ぜ ん かんきょう ひろ おお い
南三陸町の海には多様な自然環境が広がり、多くの生きものたちが暮らしています。ふくざつ い く かいがん ちい い
複雑に入り組んだリアス海岸には、小さな入り江がいくつも連なり、磯や干潟が生きものを育てています。太平洋に直接面し、外洋の影響を強く受ける海岸が見られる一方、深い湾の奥は穏やかな環境が広がります。

う た つ し づ が わ と ぐ ら ふく みなみさんりくちょう う み ぜん たい し づ
ここでは、歌津、志津川、戸倉を含む南三陸町の水全体を「志津川湾」と呼び、そこで見られる主な生きものたちや、湾で行われている漁業の様子を紹介します。

し づ が わ ん せ か い て き き ち ょ う かんきょう り ゆ う
志津川湾が世界的に貴重な環境である理由を、みんなでいっしょに探してみましよう。



し づ が わ ん ない つばきしま
志津川湾内の椿島

2. 志津川湾の営み

○南三陸町の昔の漁業と海辺の様子

南三陸町では昔から
漁業が盛んでした。志
津川湾のタコは「西の
明石、東の志津川」と
いわれるほど味が良い



ことが知られていま いしやり いしやりでタコを釣る
す。「いしやり」と呼ばれる、平らな石に、先っぽに針がついた竹
をひもで結んだ道具を船から垂らしてとる方法や、昭和初期からは
「タコツボ」と呼ばれる壺を海に沈めてとる方法などがありまし
た。

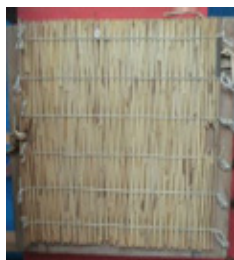


ウニ漁（戸倉）

ウニやアワビは、船から箱メガネをの
ぞきながら「ウニカギ」や「アワビカ
ギ」と呼ばれる先の曲がった道具を長い
竿の先につけてとります。

明治時代に入るとノリ養殖を皮切りに、養殖漁業が始まりました。
それまでは海が荒れると漁を行うことができず安定した収入が
期待できませんでしたが、養殖が定着することにより人々の生活は
安定しました。現在でも、志津川湾にはさまざまな養殖施設が並
び、特徴的な風景を作り出しています。

しづがわん げん
志津川湾では現
ざい ようしょく おこな
在、ノリ養殖は行わ
れていませんが、志
づがわん しゅるい
津川湾のノリは種類
おお あじ よ
が多く、味が良かつ
たそうです。



ノリス



ノリ干し場

(まつばら しょうわ とし ざろ)
(松原・昭和30年ごろ)

ようしょく
養殖されたノリは、

「ノリス」の上に置いた木枠に入れて形を整え、ノリ干し場で干して
ていました。



ワカメ干し

(とぐら ながしず)
(戸倉・長清水)

つづ はじ
続いて始まったワカメ養殖（昭和
ねんだい
30年代）は、ワカメの種苗のつい
たなわ うみ う せいちよう
た縄を海に浮かべて成長させ、生や
かこう しゅつか
加工したものを出荷しました。

うみ ひとひと めぐ
海は人々に恵みをもたらすこともありましたが、大きな災害をも
たらすこともたびたびありました。みなみさんりくちよう
南三陸町では1896年の明治
さんりくじしん ねん じしん
三陸地震や1960年のチリ地震など、地震にともなう津波が多く
およ おお ひがいのこ
押し寄せ、大きな被害を残しています。しかしそのたびにみなみさんりくちよう
の人々は海と向き合い、海とともに生きてきた歴史があります。

○志津川湾の漁業

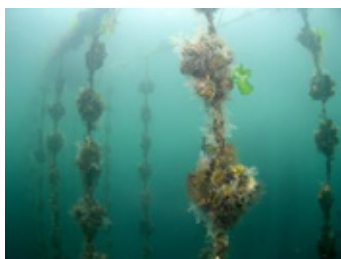
漁業は南三陸町の重要な産業です。志津川湾ではいろいろな漁業が営まれています。特に、三方を陸に囲まれた穏やかな環境を活かした養殖業が盛んに行われています。



カキ養殖

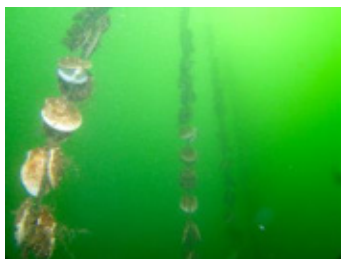
マガキの養殖は志津川湾での主要な養殖業の一つです。大きな黒い浮きの下にはたくさんのカキがロープでつり下げられています。カキは海中の植物プランクトンなどをろ過して食べ成長します。

2017年、戸倉地区のカキ養殖は、環境に配慮した養殖水産物のエコラベル（ASC認証）を取得しました。



ホタテ養殖

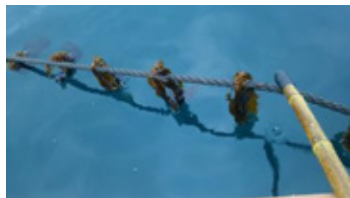
生後1年ほどのホタテの殻の耳の部分にテグスを通してホタテを海中につるして行われます。その後1-2年で出荷するサイズに成長します。



ホヤ養殖

マボヤが付着したロープを海中につるして行われます。3年目から4年目の夏に水揚げされ出荷されます。5-8月が旬です。





ワカメ^{ようしょく}養殖

水温^{すいおん}が下^さがる 11月^{がつころ}頃に幼^{おさな}いワカメを
ロープにはさみ込み^さ、そのロープを水面^{すいめん}
近く^{ちか}に沈^{しず}めて養殖^{ようしょく}します。2-5月に収穫^{かつしゅうかく}
します



ギンザケ^{ようしょく}養殖

淡水^{たんすい}で飼育^{しいく}した稚魚^{ちぎょ}を秋^{あき}に海^{うみ}に浮^うかべ
た生け簀^{いす}に入れ、エサ^{えさ}を与^{あた}えて育^{そだ}てま
す。ギンザケは成長^{せいちょう}が速^{はや}く、春^{はる}から夏^{なつ}に
は水揚げ^{みずあ}げされます。志津川湾^{しづがわん}はギンザケ
養殖^{ようしょく}発祥^{はつしょう}の地^ちです



タコかご^{ぎょぎょう}漁業

かごの中^{なか}にサンマなどのエサ^{えさ}を入れて
海底^{かいてい}に沈^{しず}め、タコ^{きそ}を誘^ごい込みます。
2017年秋^{ねんあき}は、記録^{きろく}的なマダコ^{てき}の豊漁^{ほうりょう}
となりました。



定置網^{ていちんえつ}漁業

沖^{おき}の海底^{かいてい}に大^{おお}きな網^{あみ}を設^せ置^ちして、その
中^{なか}に魚^{さかな}を誘^{さそ}い込みます。魚^こがたまった
網^{あみ}を船^{ふね}で上^あげてま^みとめて水揚げ^{みずあ}げします。
サケやブリ、イワシなど様々^{さまざま}な魚^{さかな}をとる
ことができます。

3. ラムサール条約ってなに？

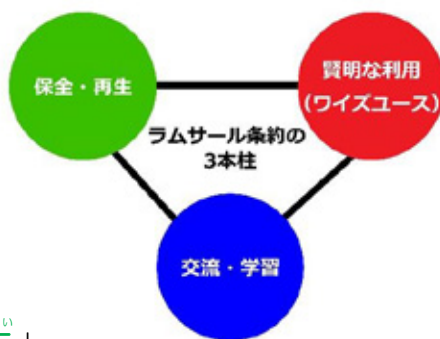
ラムサール条約の正式な名前は、「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」です。私たちの暮らしを豊かにする湿地を守るために決められた、世界でも有名な条約です。



ラムサール条約のロゴ

「湿地」とは、川や池や田んぼ、海岸や干潟など、海辺をふくむ身近な水辺のことを指します。

ラムサール条約は、3つの柱を大きな目的としています。



① 「保全・再生」

私たちの暮らしを支える重要な湿地の生態系を守る。

② 「賢明な利用 (ワイズユース)」

湿地の生態系を保ちながらその恵みを末永く、賢く使う。

③ 「交流・学習」

湿地での交流・学習を通して湿地の大切さを広く伝える。

○ラムサール条約湿地「志津川湾」

2018年10月18日、歌津・志津川・戸倉の海域を含む南三陸町の海「志津川湾」がラムサール条約湿地に登録されました。そして、その5日後の10月23日には、アラブ首長国連邦の都市「ドバイ」で行われたラムサール条約締約国会議にて、認定証が授与されました。



ラムサール条約湿地登録認定証



志津川湾のロゴマーク



○日本のラムサール条約湿地

現在、日本にはラムサール条約に登録された湿地が 52ヶ所あります。宮城県には志津川湾のほか、伊豆沼・内沼、化女沼、蕪栗沼・周辺水田、化女沼が登録されています。



日本のラムサール条約湿地

コラム：ラムサール条約湿地の登録基準ってなに？

ラムサール条約湿地に登録されるには、以下の 9 つの国際的な登録基準のどれかに当てはまる必要があります。

- ☑ **基準1**：特定の生物地理区内で、代表的、希少または固有の湿地タイプを含む湿地。
- ☑ **基準2**：絶滅のおそれのある種や群集を支えている湿地。
- ☑ **基準3**：特定の生物地理区内における生物多様性の維持に重要な動植物を支えている湿地。
- ☑ **基準4**：動植物のライフサイクルの重要な段階を支えている湿地または悪条件の期間中に動植物の避難場所となる湿地。
- ☐ **基準5**：定期的に 2万羽以上の水鳥を支えている湿地。
- ☑ **基準6**：水鳥の 1 種または 1 亜種の個体群の個体数の 1%以上を定期的に支えている湿地。
- ☐ **基準7**：固有な魚介類（魚、エビ、カニ、貝類）の亜種、種、科、魚介類の生活史の諸段階、種間相互作用、湿地の価値を代表するような個体群の相当な割合を支えており、それによって世界の生物多様性に貢献している湿地。
- ☐ **基準8**：魚介類の食物源、産卵場、稚魚の生育場として重要な湿地あるいは湿地以外の漁業資源の重要な回遊経路となっている湿地。
- ☐ **基準9**：鳥類以外の湿地に依存する動物の種または亜種の個体群の個体数の 1%以上を定期的に支えている湿地。

志津川湾はこの中のうち、チェックのついた 5 つの基準を満たしています。これは滋賀県の琵琶湖などと並んで日本で最も多い数です。

4. 志津川湾の藻場

海藻の森や海草の草原のことを「藻場」といいます。藻場をつくる海藻は、ウニやアワビなど、様々な生きものの大切なエサになります。また、普段は沖にいても、子どもの頃を藻場に守られて過ごす魚や、藻場で卵を産む魚もいます。このように、藻場は多くの生きものの隠れ家やゆりかごとなります。さらに、葉の上に住む小さな生きもの達と一緒に、海の水をきれいにします。

藻場は生態系の中で大切な役割を果たすとともに、私たち人間にとっても豊かな恵みを与えてくれる重要な存在なのです。これまでの調査から、志津川湾では200種以上の海藻と5種の海草が確認されています。

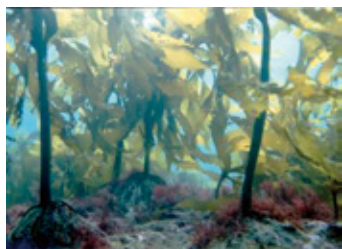


しづがわわん きまざま も ば
志津川湾には様々なタイプの藻場があります。



コンブ場^ば

マコンブは、^{すな}砂まじりの^{あさ}浅い^{かいてい}海底で^{おお}大きな^{もり}森をつくる^{かいそう}海藻です。このような^{も ば}藻場を^ばコンブ場といいます。ウニやアワビの^{じゅうよう}重要なエサにもなります。



アラメ場^ば

波^{なみ}当^あたりの強い^{つよ}浅い^{あさ}岩^{いわ}場に^は生える^{からだ}アラメ^{くき}がつくる^は藻場です。アラメの体は^な茎と^{ふたまた}葉から^{えだわ}なり、^お茎は^は二又^{じゅうよう}に枝分かれます。切れ^き落ちた^き葉はウニやアワビの重要なエサになります



ガラモ場^ば

アカモクなど、^{からだ}体に^{うきぶくろ}浮袋を持つ^も海藻の^{かいそう}仲間^{なか}が作る^ま藻場^{つく}です。浮袋の^{も ば}浮力^{うきぶくろ}で^{ふりよく}海底^{かいてい}から^き立ち^た上がり^あ、^せ背^{たか}の高い^{も ば}藻場^{つく}を作ります。



アマモ場^ば

アマモなどの^{うみくさ}海藻^{そうげん}の^{うみくさ}草原^{りくじょう}です。海草は^{しゅ}陸上^{しよくぶつ}の^{おな}種子植物^なと同じ^{しづがわわん}仲間^{しづがわわん}です。志津川湾では^{しゅるい}5種類^{るい}のアマモ類^{かくにん}が確認されています。

志津川湾は『マコンブ』と『アラメ』が共存する貴重な海

マコンブは北海道で有名なように、冷たい海を代表するコンブの仲間です。一方アラメは、暖かい海を代表するコンブの仲間です。

志津川湾は、その両方が見られる大変貴重な海なのです。



マコンブ

北海道から茨城県まで分布します。まとまった藻場がある海域としては志津川湾が南限に近いと言われています。

寿命：1-2年。

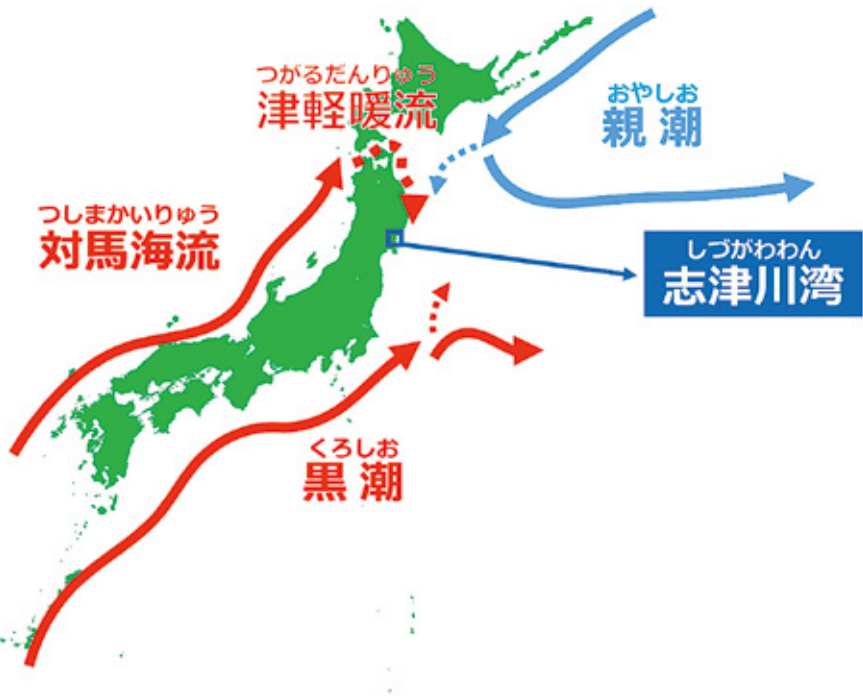


アラメ

九州から岩手県まで分布します。まとまった藻場がある海域としては、志津川湾が北限に近いと言われています。三陸では「カジメ」と呼ばれます。

コラム：志津川湾と海流

志津川湾は、冷たい海流(寒流)と暖かい海流(暖流)の影響をバランスよく受けています。北からやってくる冷たい親潮は、北海道の沖を通過して三陸の沖で東に向きを変えますが、その支流が三陸沿岸へ到達します。一方、南からやってくる黒潮は房総半島沖で蛇行しながら太平洋の東へ流れを変え、その支流が三陸沿岸へ到達します。さらに、日本海から津軽海峡を抜けて南下する津軽暖流も三陸沿岸にやってきます。志津川湾は、これら三つの海流が混ざり合う多様性豊かな貴重な海なのです。



コラム：モニタリングサイト1000調査

毎年6月、志津川湾の椿島付近で海藻類の生育状況を記録する調査を行っています。多様な生態系を守る取組みの一つとして、環境省は国内の重要な自然環境を1000ヶ所程選んで調査をしています（モニタリングサイト1000）。志津川湾は、全国で6ヶ所しかない藻場サイトのひとつに選ばれているのです。

ネイチャーセンター（南三陸町自然環境活用センター）では、2008年からこの調査に関わり、藻場の変化を記録してきました。震災後、地盤沈下の影響で藻場が岸寄りにシフトしたことがわかりました。これは震災前のデータがあったからこそ明らかになったことです。藻場は、さまざまな海の生きものたちを育む大切な存在です。その様子をこれからもしっかりと見守っていく必要があります。

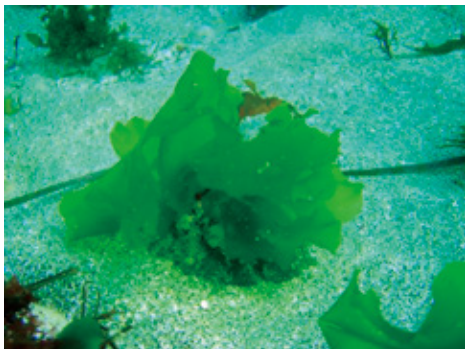


藻場調査の様子

○志津川湾の海藻たち

(海藻は緑色、茶色、赤色の3グループに分けることができます)

【緑藻類(りよくそうるい)】



アナアオサ

とても鮮やかな緑色の海藻です。
その名のとおりの葉には小さな穴がたくさんあいています。コクガンなど植物を好む海鳥の重要なエサになります。



ウスバアオノリ

体は薄く、幅が広くて長い葉のような形です。長さは10-30cmほどにもなります。お好み焼きやたこ焼きにかける青のりの原料になります。



オオハネモ

やわらかい手触りで、鳥の羽根のような形をした美しい海藻です。高さが20-30cmの大型になることから、この名前がつけられました。

【褐藻類(かつそうい)】



ワカメ

しづがわん かいさんぶつ
志津川湾のメジャーな海産物のひとつ。メカブはワカメの根元部分のことで、なま ちゃいろ
生ワカメは茶色ですが、ねっとう い あざ みどりいろ
熱湯に入れると鮮やかな緑色になります。



アカモク

からだ うきぶくろ も かいてい
体にたくさんの浮袋を持ち、海底からまっすぐ水面へ伸びていきます。すいめん の
時には長さが 5 m を超えることもあります。とき なが こ
「ギバサ」と呼ばれ食用にもされます。よ しよくよう



ヒジキ

ちゃいろ かいそう なかま
ヒジキは茶色い海藻の仲間です。あさ いわはだ おお ぐんせい
浅い岩肌を覆うように群生します。しよくたく のぼ くら ゆ
食卓に上るヒジキが黒いのは、茹でたり干したりする加工を繰り返したためです。ほ かこう く かえ

【褐藻類(かっそうるい)】



マツモ

さんりく ほこ こうきゅうしよくざい

三陸が誇る高級食材のひとつです。

しるもの い みどりいろ こう
汁物に入れると緑色になり、香ばし

いそ かお ただよ なま ほ
い磯の香りが漂います。生や干した

ものをあぶって「焼きマツモ」とし

ても利用されます。



イシモズク

しづ が わん すうしゅるい なか
志津川湾には数種類のモズクの仲

ま せいいく しゃしん かいそう
間が生育しています。写真の海藻は、

いわ おお おも
岩につくことの多いイシモズクと思

われます。「岩もずく」とも呼ばれて
います。



ウルシグサ

とり はねじょう うつく かいそう し
鳥の羽状の美しい海藻ですが、死

からだ りゅうさん だ
ぬと体から硫酸を出してボロボロ

になります。ほか かいそう いた
他の海藻まで傷めてし

まうため、コンブ りょうし きら
漁師からは嫌われ
ています。

【紅藻類(こうそうるい)】



ユカリ

あざ あかいろ かいそう こま
鮮やかな赤色の海藻です。細かく
えだわ は こうご ねら うつく
枝分かれした葉が交互に並んだ美し
かたし かいそう
い形をしています。海藻おしばには
か ざいりょう
欠かせない材料です。「ゆかり」とは、
むらさきいろ い み ことば
紫色を意味する言葉でもあります。



フクロフノリ

み そ し る ぐ さ し み
味噌汁の具や刺身のツマとして
よく食べられる海藻です。体は袋状
くうどう しお ひ いわはだ
の空洞で、潮が引いたあとの岩肌で
は、なか くうき ふく
は、中の空気が膨らんでいることが
あります。



マクサ

てんぐさ とも 呼ばれ、かんてん ざいりょう
として一番良質とされる高級海藻の
いちばんりょうしつ こうきゅうかいそう
ひとつです。しづがわ ぜん
志津川湾でも以前はマク
サの りょう さいきん おこな
魚がいましたが、最近では行わ
れていないようです。

【紅藻類(こうそうるい)】



ヘイゴコロ

すいちゆう 水中でライトを当てると蛍光色に
 ひか うつく 光る美しい海藻です。おしばにして
 も、ハート型^{がた}の葉先が桃色^{はさき}がかった
 あかいろ 赤色になりとてもきれいです。2010
 ねん 年にこの名前^{なまえ}がつけられました。



ソメツケアマノリ

みず なが 水の流れにたなびいているのがソ
 メツケアマノリです (矢印)。河口^{がこう}
 ふきん ひがた 付近^{やじろし}の干潟^{せいく}に生育するノリの仲間^{なかも}
 で、写真ではオゴノリの棒状^{ぼうじょう}の葉に^は
 くっついて^{しゃしん}います。水戸^{みと}辺^へ川の河口^{がこう}
 で撮影^{さつえい}されました。



エゾシコロ

せっかいしつ 石灰質^{かた}の固^{からだ}い体^{つく}を作るサンゴモ
 の仲間^{なかも}です。体^{からだ}には、たくさん^{ふし}の節^{ふし}
 があり、枝^{えだ}は羽根状^{はねじょう}に枝分かれ^{えだわ}しま
 す。波^{なみ}当たり^あの強い磯^{いそ}に生育^{せいいく}します。

【海草類(うみくさるい)】



アマモ

ないわん しず す ち せいいく うみくさ
内湾の静かな砂地に生育する海草の
な か ま かいちゅう おお そうげん
仲間です。海中に大きな草原をつくり、
さまざま い す
様々な生きもののすみかとなります。
こくがん じゅうよう
コクガンの重要なエサのひとつです。



スガモ

みやぎけん ※
(DD：宮城県)

アマモと異なり、波当たりの強い浅い
いわば せいいく うみくさ な か ま ほそなが
岩場に生育する海草の仲間です。細長く
かた は とくちよう けんない さんりくかいがん
固い葉が特徴です。県内では三陸海岸
なんぶ まつしま ぶんぶ せいいくち
南部から松島にかけて分布し、生育地は
かぎ
限られています。



スゲアマモ

すな さでい かいてい せいいく うみくさ
砂から砂泥の海底に生育する海草
な か ま ち かけい ほか うみくさるい
の仲間です。地下茎が他の海草類の
ように横に広がらず、一ヶ所で株の
よこ ひろ いっかしょ かぶ
ように束になって生育する特徴があ
ります。
たば せいいく とくちよう



タチアマモ

(DD：宮城県，VU：環境省)※

草丈が 7 m にもなる世界最長の海

草類です。他のアマモ類よりも深い

水深に生育します。東日本大震災に

よる津波で生育域が減少しましたが、

徐々に回復していることが確認され

ています。環境省のレッドリストで

は絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。

“海草の花”

海藻は花を咲かせることはありませんが、海草は海中で花を咲かせ実をつけます。下の写真は、スゲアマモの花です。春になると茎を伸ばし、その先に小さな白い花をつけます。



(※：P24 参照)

5. 志津川湾の干潟・湿地

干潟は、多くの生きもの達の重要なすみかです。一生干潟で生活するものや、幼生の時など一生のごく一部の時期を過ごすものなど、湾内の多くの生きものを育む大切な存在です。また、干潟の泥の中に住む動物や微生物のはたらきによって水をきれいにすること大切な機能を担っています。志津川湾の海岸には、複雑に入り組んだ入り江がいくつも連なり、たくさん干潟が見られます。



「日本の重要湿地500」に選定

志津川湾は、環境省が選定する「日本の重要湿地500」に選定されています。

選定理由：アマモ類4種（アマモ、スガモ、スゲアマモ、タチアマモ）が生育し、アマモ場、コンブ場、アラメ場およびガラモ場の4タイプの藻場が分布する（p. 6-7, 15-16参照）。底生動物の種多様性が高く、それらの生息地として相当な規模を有する。

「宮城県の重要な干潟」に選定

細浦と戸倉海岸の干潟は、まとまった干潟があることや底生動物の多様性から「宮城県の重要な干潟」に選定されています。

また、湾内の干潟からは数多くの希少動物が確認されています。



細浦での調査風景



戸倉海岸

絶滅危険度からの評価の区分と内容

区分	内容
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅の危機が増大している種
準絶滅危惧 (NT)	絶滅危険度は小さいが、存在の基盤が危うい種
情報不足 (DD)	希少であるが、情報が不足している種

「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物（2016）」より

しづがわん ひがた きしょう
【志津川湾の干潟で見られる希少な生きものたち】



シロウオ (VU) 上:オス 下:メス



アカイソガニ (DD)



バルスアナジャコ (DD)



サンリクドロソコエビ (DD)



サクラガイ (NT)



マテガイ (NT)

しづがわわん ひがた きしょう
【志津川湾の干潟で見られる希少な生きものたち】



イボキサゴ (NT)



クビキレガイモドキ (VU)



ナギサノシタタリ (VU)



ヤマトクビキレガイ (NT)



ネムグリガイ (DD)



ハウザワイソギンチャク (NT)

○松原干潟の生きもの調査

今から 50 年ほど前、八幡川河口の松原海岸は潮干狩りなどが楽しめる身近な場所でした。1960 年のチリ地震津波の後に防潮堤が作られ、松原海岸は「松原公園」となりました。しかし、2011 年の東日本大震災による津波で防潮堤が壊され、再び干潟や磯を含む海岸に戻りました。

志津川高校自然科学部の部員たちは、この海岸を松原干潟と呼び、どのような生きものが暮らしているのか調査を行いました。調査の結果、100 種近くの生きものが干潟で見つかりました。ここでは、実際の調査方法と松原干潟で見つかった貴重な生きものたちを紹介します。



現在の松原干潟の様子

ちょうさ ほうほう 調査の方法



- ① 地表にいる生きものを探す
生きものは岩の隙間や石の裏にいることが多い



- ② 泥や砂の中にいる生きものを探す
スコップで土を掘り返したあと、ふるいにかけて生きものを探す



- ③ 見つけた生きものを袋に入れる
持ち帰ったあと、どんな生きものか、図鑑を使って名前を調べる

まつばら ひが た きちよう い 松原干潟の貴重な生きもの

松原干潟は志津川の中心街近くにありますが、絶滅のおそれがある貴重な生きものが多く見つかっています。



トリウミアカイソモドキ
みやぎけん
VU (宮城県)
かんきょうしょう にほん がっかい
NT (環境省、日本ベントス学会)



ヨモギホンヤドカリ
かんきょうしょう
NT (環境省)
にほん がっかい
NT (日本ベントス学会)



スジホシシモドキ
かんきょうしょう みやぎけん
NT (環境省、宮城県、
にほん がっかい
日本ベントス学会)



カネコボシガニ
かんきょうしょう
DD (環境省)

地元の高校生たちの手によって、松原干潟が志津川湾にとっても重要であることが分かってきました。今後も調査を続けていけば、さらにたくさんの生きものが見つかるかもしれません。

6. 志津川湾の水鳥

志津川湾はコクガンの重要な越冬地



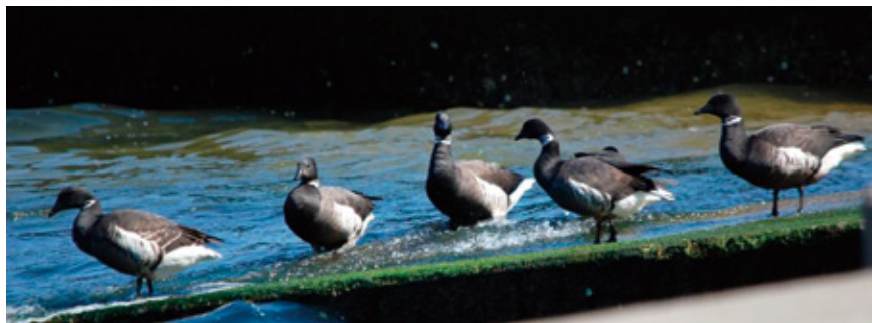
毎年冬になると、遙か北方から南へ渡ってくる鳥たちがいます。志津川湾にも沢山の種類の水鳥が集まり冬を越します。コクガンもその一つで、毎年100-200羽ほどが志津川湾へやって来ます。



コクガン



- ・ ガンの仲間では唯一海に暮らす種類
- ・ 国の天然記念物
- ・ 絶滅危惧種（絶滅危惧Ⅱ類：環境省・宮城県）



コクガンは北極圏のツンドラで繁殖した後、冬鳥として北日本沿岸にや
 ってきます。個体数が少なく、越冬地も限られています。静かな内湾であ
 ることや、エサとなる海藻や海草の安定した藻場があることと、休憩場所と
 なる岩礁帯などの存在が必要です。志津川湾には、コクガンが冬を越すの
 に適した環境がそろっています。



アオサをついばむコクガン

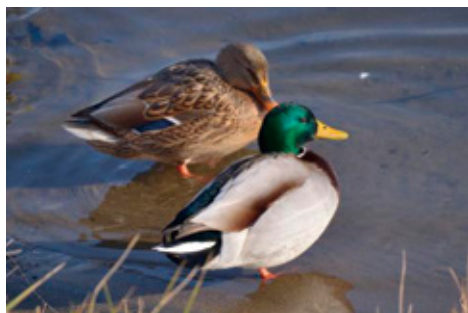


アナアオサ



アマモ





うえ した
上:メス 下:オス

マガモ

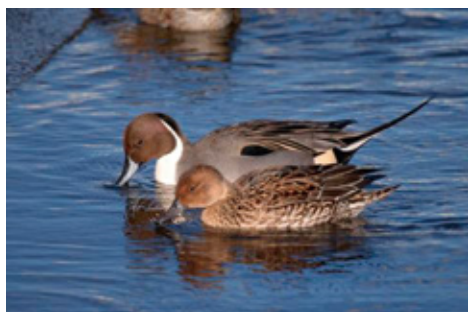
別名「あおくび」と呼ばれる通り、オスの緑の頭とバナナ色のくちばしはよく目立ちます。一方メスのくちばしはオレンジ色です。陸ガモの一種ですが、海岸でも多く見られます。



ひだり みぎ
左:オス 右:メス

ヒドリガモ

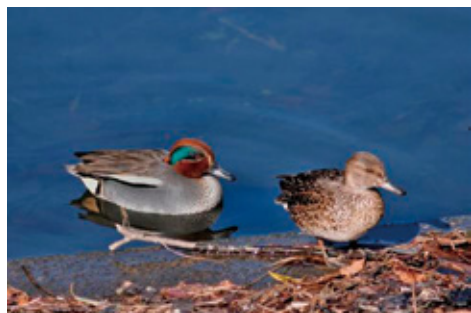
船着き場のスロープに上がって群れで海藻をついばんでいる姿をよく見かけます。オスは口笛のようなよく響く大きな声で鳴きます。



うえ した
上:オス 下:メス

オナガガモ

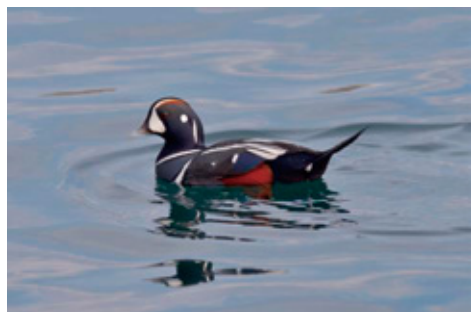
ピンと伸びたオスの尾羽が名前の由来です。海沿いでは大きな群れにはならず、沖合に単独かペアでいることがあります。



ひだり みぎ
左:オス 右:メス

コガモ

名前なまえの通り小柄こがらなカモです。オスの「ピリィ、ピリィ」という鳴き声こえはよく通とおります。お尻しりの黄色きいろい三角さんかく模様もようもよく目立めだちます。



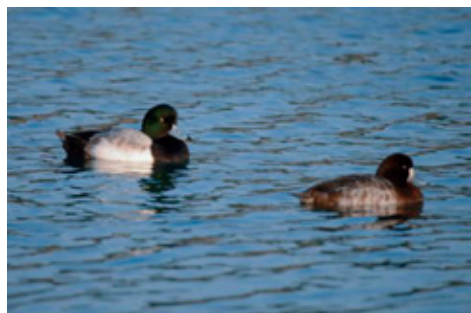
オス

シノリガモ

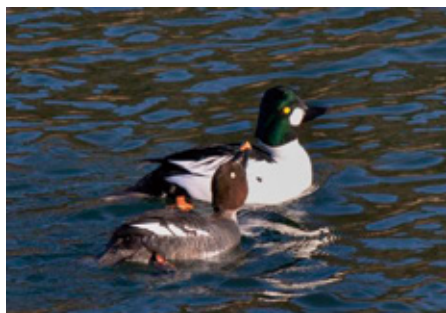
湾わんの外そとを好このむカモで、湾わんの奥おくではあまり見みられません。歌津泊浜うたつとまりはま周辺しゅうへんや椿島つばきしまより東ひがしの海域かいきなどで見みられることがあります。オスの独特どくとくの模様もようはまるでピエロのようです。

スズガモ

オスは黒くろい頭あたまで緑みどりの光沢こうたくがあります。以前いぜんは湾わんの奥おくの開ひらけた水面すいめんに数百羽すうひゃくわたんい単位むで群ようすれている様子みが見みられましたが、最近さいきんはそれほど大おおきな群むれは見みられていないようです。



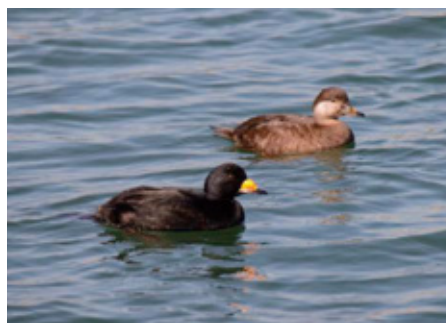
ひだり みぎ
左:オス 右:メス



うえ した
上:オス 下:メス

ホオジロガモ

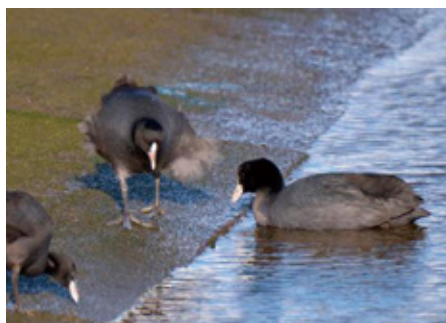
なまえ 名前のとおり、オスの類にはよく
めだ おお しろ もよう 目立つ大きな白い模様があります。お
むすび がつ あたま とくちようで き かこうい き むすび型の頭も特徴的です。河口域
そとうみ ひろ み おお から外海まで広く見られますが、大
な ぐれ なる ことは ありません。



ひだり みぎ
左:オス 右:メス

クロガモ

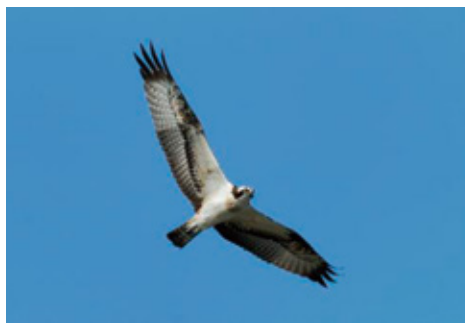
オスは からだ ま くろ きいろ はなき き 体が真っ黒で、黄色い鼻先が
よく めだ 立ちます。 湾の 外に 多い カモで
すが、 震災 後は 湾の 奥まで 群れで 入っ
て くる ように なりました。「フィー、
フィー」と 涼しげな 声で 鳴きます。



オオバン

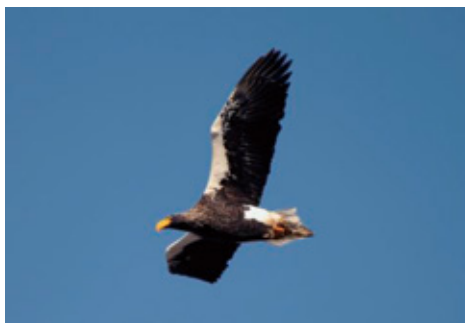
くろ からだ しろ はなき き めじろ し 黒い体に白い鼻先が目印です。コ
クガンやヒドリガモなどに交じって
み 見られることが多く、水に潜ってエ
サを と 採るので、潜れない他の鳥たち
にエサを横取りされることがありま
す。

しづがわわん もうさんさい
【志津川湾の猛禽類】



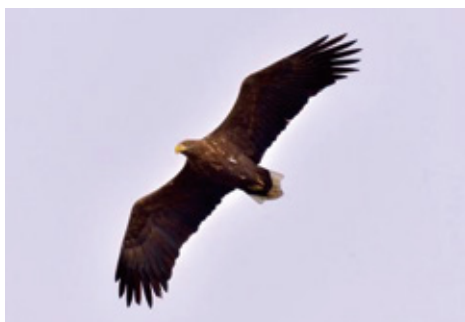
ミサゴ

空中^{くうちゅう}でホバリングした後、海面^{あゝ かいめん}に飛び込んで狙った魚を捕えます。飛行機^{ひこうき}の「オスプレイ」は、ミサゴの英語名が由来です。一年を通して観察^{かんさつ}でき、志津川湾^{しづがわわん}を取り囲む山々^{さんざ}で数ペアが繁殖^{はんしよく}しています。



オオワシ

黄色^{きいろ}いくちばしとくさび形^{がた しろ}の白い尾、翼前方^{お つばきぜんぽう}の白い縁取り^{ふちど}が特徴です。国指定天然記念物^{くにしていてんねんきねんぶつ}で、絶滅危惧種^{ぜつめつきぐしゆ}（絶滅危惧Ⅱ類^{ぜつめつきぐ}：環境省^{るい かんきやうしやう}）の希少種^{きしょうしゆ}です。毎年数羽が志津川湾^{しづがわわん}で越冬^{えつとう}します。



オジロワシ

その名^なのとおり尾^おの先^{さき}が白^{しろ}いのが特徴^{とくちょう}です。国指定天然記念物^{くにしていてんねんきねんぶつ}で、絶滅危惧種^{ぜつめつきぐしゆ}（絶滅危惧Ⅱ類^{ぜつめつきぐ}：環境省^{るい かんきやうしやう}）の希少種^{きしょうしゆ}です。志津川湾^{しづがわわん}には冬鳥^{ふゆどり}として数羽^{すうわ}が飛来^{ひらい}します。

7. 志津川湾の特徴的な生きものたち

これまで行われてきた調査から、志津川湾ではユニークで可愛い生きものたちが多く確認されています。



クチバシカジカ

おちょぼ口で海底をチョコチョコと歩く
体長7cmほどのカジカの仲間です。南三陸町の
キャラクター「クチ坊」として親しまれています。



ダンゴウオ

まん丸の体がお団子のような可愛い魚
です。体長は2cmほど。体色は赤やピンク、
緑などカラフルになります。普段はお腹の吸盤
で海藻や岩にくっついてます。



ソメワケウミクワガタ

オスの成体(写真右上)はクワガタムシそっ
くりの大きなアゴがあります。実はエビやカニ
の仲間で、幼生(写真オス以外)は魚の寄生虫
として生活しています。体長は5mmほど。



タシンスナクモヒトデ

1878年に東京湾で見つかった以来、100
年以上の間見つかったことのない幻のクモ
ヒトデの仲間が志津川湾で見つかりました。



マダコ

志津川湾が名産の美味しい海産物です。
貝やカニが大好き。暖かい海を代表する
タコの仲間です。南三陸町ではキャラクター
「オクトパス君」として親しまれています。



ミズダコ

冷たい海を代表するタコの仲間です。
大型のタコで、体長が3mを超えること
もあると言われます。



クロタマキビ

波が当たる岩場に見られる巻貝です。
冷たい海に住み、志津川湾が分布の南限と
されています。



オオウスイロヘソカドガイ

波しぶきがわずかに当たる程度の岩場で
見られる小さな巻貝です。暖かな海に住
み、志津川湾が分布の北限とされていま
す。

8. 湿地を活かしていくために

透き通った海の上に浮かぶ磯舟。その影が白い海底に映っています。まるで沖縄の砂浜のようですが、海底が白いのは砂浜ではなく石灰藻と呼ばれるピンク色の藻類が岩肌を覆っているからです。今、志津川湾では、マコンブやアラメなど大型の海藻類が姿を消し、この石灰藻が海底を覆う「磯焼け」と呼ばれる現象が見られるようになりました。その原因には様々な理由が考えられますが、そうした場所では海藻を食べるウニの数が多く、新たに芽生える海藻も食べてしまうのでなかなか元の海藻の森には戻りません。また、磯焼けが見られる海のウニは、身入りが悪く、商品として売れなくなります。



2015年12月2日 野島周辺



いそや かいてい
磯焼けした海底とウニ



まび さぎょう
ウニの間引き作業



まび ご そだ こ
ウニ間引き後に育ったアラメの子



せいちょう わか
成長した若いアラメ

げんざい かいそう もり ふっかつ み い と
現在、海藻の森が復活し、実入りのよいウニやアワビが取れるバ
ランスのとれた海づくりを目指した取り組みが行われています。漁協
だいがく やくば きょうどう うみ もく かいそう かいそう た みつど
と大学、役場が共同で海に潜って海藻や海藻を食べるウニの密度を
しら べ まび さぎょう ていきてき おこな じょうくう
調べたり、ウニの間引き作業を定期的に行っています。また、上空
さつえい がそう ひだり しゃしん かいそう りよう へんか きろく
から撮影した画像（左の写真）をもとに海藻の量やその変化を記録
しています。地道な調査ですが、これからの方策をさぐるヒントが
み きたい
見つかると思います。



参考図書

神谷充伸（監修）2012.「ネイチャーウォッチングガイドブック海藻」誠文堂新光社
志津川町誌編さん室（編集）1989.「生活の歓 志津川町誌 II」志津川町
志津川高校 自然科学部 2018.「松原干潟の生き物たち」NPO 法人底上げ
高野伸二 2015.「フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂新版」日本野鳥の会
田中次郎（解説）2004.「日本の海藻」平凡社
政岡伸洋・鈴木卓也・小谷竜介（監修）2008.「波伝谷の民俗」東北歴史博物館
南三陸ネイチャーセンター友の会 2016.「南三陸 海鳥ガイドブック」
宮城県 2016.「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物」宮城県環境生活部自然保護課
横浜康継 2001.「海の森の物語」新潮選書

写真提供

青木優和（東北大学大学院農学研究科水圏植物生態学分野）
佐藤賢二（公益財団法人日本野鳥の会宮城県支部）
鈴木卓也（南三陸ネイチャーセンター友の会）
高橋直哉（南三陸海しょくにん）
太齋彰浩（デザイン・バル）

ラムサール条約湿地 志津川湾

2017年3月31日発行「南三陸の海とラムサール条約」

2019年2月8日改訂版

発行：南三陸町

〒986-0725 宮城県本吉郡南三陸町志津川字沼田 101 番地

TEL：0226-46-2600（代表） FAX：0226-46-5348

URL：http://www.town.minamisanriku.miyagi.jp/